

# 南アルプス市立八田中学校 後期自己評価書

平成26年1月24日(金)作成

学校長：奥山 邦次

記述者：教諭 清水 英樹

1. 校訓 「日日新」
2. 本年度の学校教育目標  
「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成  

|   |                   |      |   |     |
|---|-------------------|------|---|-----|
| は | 励んで学び、確かな知識を持つ生徒  | (知育) | → | 知の力 |
| つ | 強い精神と身体を持つ生徒      | (体育) | → | 体の力 |
| た | 助け合い、いたわり合う心を持つ生徒 | (徳育) | → | 心の力 |

3. 学校経営方針  
(1)職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。  
(2)生徒理解を深め、一人ひとりの良さや可能性が活かされるよう努める。  
(3)教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。  
(4)家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。
4. 生徒の努力目標  
(1)授業にしっかり取り組もう（主体的・能動的・積極的に取り組めたか）  
(2)さわやかに挨拶をしよう（今日の、この出会いを大切に出来たか）  
(3)思いやりの心を行動につなげよう（相手の身になって考え行動できたか）  
(4)主体的に活動しよう（3本の木を大切にし創意工夫をもち取り組めたか）
5. 教師の努力目標  
(1)教育の原点を見つめ続ける教師（教育の本質）  
(2)自らの資質・能力の向上を求め続ける教師（研修 研究と修養）  
(3)謙虚・誠実・真摯に指導・対応する教師（教員としての姿勢 人間性）
6. 学校経営の努力点  
(1)調和の取れた人間関係をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努める。  
(2)自ら学び、自ら考える学習指導に努め、確かな学力の向上に努める。  
(3)豊かな人間性を育み、心の安定を図る生徒指導に努める。  
(4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。  
(5)地域との連携を深め、開かれた、信頼される学校づくりに努める。

## I 後期学校評価

### 1. 教職員の自己評価

#### (1)前期との比較

《A・B（肯定的評価）において》

- ① A・B（肯定的評価）の合計が90%未満の項目について  
「学校運営3」「教育課程3・4・6」以上4項目である。
- ② A評価が10%以上向上した項目について  
「学校運営1・2」「教育課程2・5」「生徒指導1」以上5項目である。  
A評価が10%以上減少した項目について  
「教育課程4」「生徒指導4」「特別活動3・4」以上4項目である。

《C・D（否定的評価）において》

- ③ C（否定的評価）が10%増えた項目  
0項目である。  
D（否定的評価）0項目である。
- ④ C・D（否定的評価）の評価がまったくない項目

「学校運営1・2・4・5・6」「教育課程2・5」「生徒指導2・3」「特別活動1・2」「特色ある学校1」「開かれた学校」以上13項目であった。

※ 前期と比較すると、C（否定的評価）からA・B（肯定的評価）への移項傾向がみられ、より改善してきている。学校生活、合唱活動や問題行動対応等、学校全体で情報交換を密にして、家庭や生徒への働きかけや指導方法について検証し、より改善しようとする姿勢がうかがえる。

#### (2)次年度取り組み課題（自由記述より）

- ① 校務のスリム化を図り、より働きやすい環境を作ることで、教師が生徒と真剣に向き合う時間を生み出せるよう取り組んでいきたい。

- ② 清掃や作業的なことを積極的に行わない。指示がなくても積極的に取り組む生徒に育てたい。
- ③ 改善すべき点として、生徒のあいさつ・時間を守る習慣意識の向上。また、学習では学習習慣の確立や姿勢、集中力を高める粘り強い指導を通して確かな学力の育成を目指すことが必要だと思う。
- ④ 前期評価にも書いたが、あいさつに課題がある。なかなか自発的なあいさつができない気がする。こちらからかけなければ言わない生徒や声の小さい生徒がまだまだ多い。生徒会を中心に活動しているようだが、全校であいさつ運動等の活動を展開していきたい。
- ⑤ 話を聴く姿勢ができていない生徒が見られる。4月に比べれば改善してきているが、さらに集中して心から話が聴ける生徒に育てたい。
- ⑥ 主体的に学習に取り組む姿勢が足りない。授業中の場面でも意欲が表に現れてこない。また、家庭学習の習慣が定着していない。

## 2. 学校生活に関する生徒アンケート

- (1) 前期A・B評価の合計が80%未満の項目(全校集計から) 【本年前期→後期】
- ①学校運営「1. あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成・・・」 【72%→69%】
  - ②教育課程「2. 先生は、学習面(生活)であなたの持っている力を・・・」 【79%→83%】
  - ③教育課程「4. あなたの学級会活動は、学校生活を向上させようと話し合い・・・」 【77%→77%】
  - ④特色ある学校「2. あなたは、数学のTT学習形態の授業(1・3年)で学習・・・」 【78%→82%】

- (2) 前期A・B評価の合計が80%以上であったが、後期評価が5%以上変化があった項目
- ①生徒指導「1. 先生は、生徒に正しいあり方を指導し、いけないことに・・・」 【87%→92%】
  - ②特別活動「1. あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取り組みなど・・・」 【80%→85%】
  - ③特別活動「3. あなたは、生徒会活動や委員会活動等に積極的に・・・」 【86%→78%】
  - ④特色ある学校「1. 生徒は八田中の特色ある合唱活動を、教師とともに・・・」 【90%→95%】
  - ⑤学校生活全般「1. 学校生活は全般的に楽しいと思いますか。」 【83%→89%】

- (3) (1), (2)の項目の中で下がったもののうち、昨年後期とくらべても5%以上変化があった項目
- ①教育課程「4. あなたの学級会活動は、学校生活を向上させようと話し合い・・・」 【85%→77%】
  - ②生徒指導「1. 先生は、生徒に正しいあり方を指導し、いけないことに・・・」 【85%→92%】
  - ③特別活動「3. あなたは、生徒会活動や委員会活動等に積極的に・・・」 【87%→78%】
  - ④特色ある学校「1. 生徒は八田中の特色ある合唱活動を、教師とともに・・・」 【82%→95%】

### (4) 前期評価等との比較及び取り組みの成果・課題

前期27項目あるうちの4項目でA・B評価の合計が80%を割っていた。23項目で80%を上回る結果であった。後期では、さらに2項目増え1項目が割った。前期と比較しA・B評価の合計が増加した項目は、18項目にわたる結果を得た。

学習内容や行事や部活動など、学校生活は前期よりも後期の方が質、量ともに充実しているのは確かであり、それらが評価に反映されたのではないかと考える。

1年生は、他人に依存する気持ちが強く、自ら取り組むのではなく、やらされているような気持ちが強い様である。

2年生の中には中学校生活への「慣れ」が中だるみとして出てきたのではないかとと思われる。

3年生の好結果は八田中教育の3年間の成果であるといえるであろう。

学校運営1が向上しない点を改善していく必要があると考える。しかし、学校教育そのものが「知・徳・体」を実践するプログラムで進んでいる。生徒たちは学校教育目標と繋がりは感じていないが、実際には知らないうちに体験しているのである。意識をさせながら、学校教育を進めていく事が今後大切になってくる。

また、安全で楽しい学校生活を支えるのは家庭との連携、生徒との信頼関係である。後期に改善が見られなかった、学校生活の永遠の課題とも言えるもので、気を引き締めて行かなければならない。

後期は、あらたな項目として、「いじめについて」質問をしているがA・B評価が91%であった。しかしCが7%・Dが2%いじめをしたことのある生徒がいることを忘れず対応していく必要がある。

## 3. 学校生活に関する保護者アンケート

はじめに

今回の保護者のアンケートは、従来通り全生徒についての回答をお願いした。それは兄弟・姉妹が在籍の場合、それぞれの生徒の所属する学年や学級、部活動等をベースとして回答してもらうことである。12月の三者懇談時期を締め切りに、アンケート協力を依頼した。提出率は54.2%。これは昨年の43.8%を上回った。提出していただいた保護者の方々には感謝したい。

### (1) A・B評価の合計が90%以上の項目

- ①学校運営「1. 学校は、学校教育目標を達成するために、さまざまな取り組みを・・・」 【94%】
- ②学校運営「2. 学校は、学校の教育活動の中で、合唱活動・部活動・応援に力を・・・」 【94%】
- ③学校運営「4. 学校は、校舎内外の施設・設備等の教育環境や防災等の安全指導・・・」 【90%】
- ④学校運営「5. 学校は、合唱や道徳公開などで地域講師の活用等、学校と地域が・・・」 【97%】

- ⑤教育課程「4. 学級会活動は、学級集団の自治的向上をめざして充実した活動・・・」【90%】
- ⑥教育課程「5. 学校は、総合（音楽）を通して、生徒の音楽を愛好する心情・・・」【95%】
- ⑦教育課程「6. 学校は、「総合的な学習」での講師の先生方の話や学年の取り組み・・・」【91%】
- ⑧生徒指導「4. 学校は、生徒のあいさつや時間の厳守、家庭学習や提出物等、基本・・・」【90%】
- ⑨特別活動「2. 学校行事は、生徒の成長や学校生活に役立っていると思いますか・・・」【99%】
- ⑩特別活動「4. 生徒は、部活動で目的をもって主体的に取り組み、心身の向上に・・・」【90%】
- ⑪特色ある学校「1. 生徒は、八田中の特色である合唱活動を、教師とともに向上・・・」【93%】
- ⑫開かれた学校「1. 学校は、学期1回の一斉授業参観、学期1回の学校開放日・・・」【91%】

(2) A・B評価の合計が80%未満の項目

- ①学校運営「6. 学校は、学習指導や生活指導等、学校と家庭が連携して生徒の・・・」【77%】
- ②教育課程「1. 教師は、基礎基本の確実な定着を目指し、やり方や教材を工夫し・・・」【78%】
- ③生徒指導「1. 学校は、生徒への声かけを大切に、個に応じた支援活動に努力・・・」【79%】
- ④生徒指導「2. 学校は、学校内外の情報を収集し、生徒の問題行動に適切に対応・・・」【70%】
- ⑤生徒指導「3. 生徒の向上のために、教師と生徒、学校と家庭等が、良い関係を・・・」【74%】
- ⑥生徒指導「6. 生徒は、休日（土日・祝祭日）の過ごし方を充実しようとしている・・・」【78%】
- ⑦生徒指導「7. 学校は、いじめをなくそうと積極的に取り組んでいると思いますか・・・」【62%】
- ⑧特色ある学校「2. 数学科のTT学習形態の授業（1・3年生）の授業は、学習・・・」【74%】

(3) 昨年後期評価との比較及び取り組みの成果・課題

保護者にとって、学校教育に対する関心は高く、授業参観や行事（学園祭、合唱コンクール等）は日常の学校生活に接する貴重な機会であり、多くの保護者が来校している。また、学校の様子を把握する手段として教職員と面談したり、子どもを介したり、学校からの各種たよりやホームページを活用している。各種「通信」類は、より正確で客観的に伝えるように工夫していかなければならない。

特に、いじめに対しては早期発見、早期対応を確実に行える体制を学校全体で取り組む必要がある。

「A・B評価の合計が90%以上の項目」は、12項目でその中で、昨年度は95%以上項目が8項目あったが今年度は3項目にとどまっている。「A・B評価の合計が80%未満の項目」は昨年の3項目から8項目となった。

自由記述については、今後念入りな分析と要回答を確実に保護者に届ける作業をしなければならない。共通課題については、2月に行われるPTA学年部会等機会を捉え、学校の取り組み状況を理解していただく必要性を感じる。また記名があるアンケートには、時間をかけて丁寧な個別に対応をしていきたい。

## Ⅱまとめ(成果と課題)

教職員自己評価のA・B評価が90%、生徒アンケートのA・B評価が80%以上という観点からは生徒の様子を把握すると「肯定感と満足感」が伝わり、大きな教育成果のひとつとも言える。また、A・B評価の合計が80%以下の項目等については、真摯に受け止め、今後の重点課題として取り組んでいかなければならない。しかし、このことはこれまで八田中学校が積み上げてきたものを否定するものではないと考える。これまでの歴史を踏襲しつつさらに発展させていくことを確認したい。ただ、「伝統だから、去年もやっていたから」で続けていくことは、マンネリ化する危険性がある。来年度への課題としては、まずは「学校評価」結果を重く受け止め、少しずつでも前進させていくことが求められる。特に「学校教育目標からの繋がり」「学校生活の課題」などを肯定的評価に向上させるための手立てを検討していくことは最重要課題である。

現代社会において、生徒を取り巻く環境は日々変化し、それに伴う生徒の実態も同様に影響を受けることがある。また、学力問題や生徒指導上の諸問題についても常に向上させるプログラムが必要になってくる。

新学習指導要領が完全実施になり、急激に変化する社会をどう生きていくか、自ら考え対応できる「生きる力」の育成をめざし来年度の教育計画の再編成に着手しなければならない。

教師がどのように生徒とかかわり、またどのような対応をしているのか各家庭との連絡を密に連携しながら対応していく事が大切である。生徒自身がかかえている問題や課題、家庭や学校がかかえている課題を解決していくためには、信頼される地域に根差した学校を作っていくことが目標になる。

1年生は、80%未満が11項目あったが、8項目が向上し3項目に関しては同じか少し低下した傾向にある。特に、学校教育目標に繋げる部分での目標設定を意識して指導をしてきたい。

2年生は、前期はすべての項目で80%以上だったが、3つの項目で減少傾向にあった。変化は大きいものではないが、最上級生に向かう学年なので、少しの変化にも見落とすことがないように対応していきたい。

3年生は、2年次には課題が多く見られたが、3年生としての自覚と責任から前期から変化が表れてきた。80%未満の項目が6項目あったが、すべての項目が向上した。自分の将来に向けた目標を持つことができたことが結果に繋がっていると考え。

学習面には、市の指定「学びの質を高める授業づくり推進事業」を受け、本校のテーマを「学び高めあう生徒の育成」～生徒どうしの関わりを意識した授業づくりを通して～に設定して研究を進めてきた。授業に対する規範意識や学習に対する意識を向上させ、学ぶ楽しさや大切さに気付かせる授業を展開することで、新たな課題を見つけ自ら課題を解決しようとする意識を高めることができたことと捉えている。また、仲間との協同的な学びからコミュニケーションの大切さを学ぶことで、仲間と生きる大切さを知ることができた。

今後も、安全で何事にも意欲的にまじめに取り組み、誰もが楽しく通える学校を目指して、職員が一丸となって取り組んでいきたい。